

特248

54



0051270-000

特248-54

東亜学校案内

東亜学校

昭和15

AHM

東 亞 学 校

東京市神田區保町二丁目十二番地

電話九三〇三番(33)

特248

54

東亞學校案內

昭和十五年九月

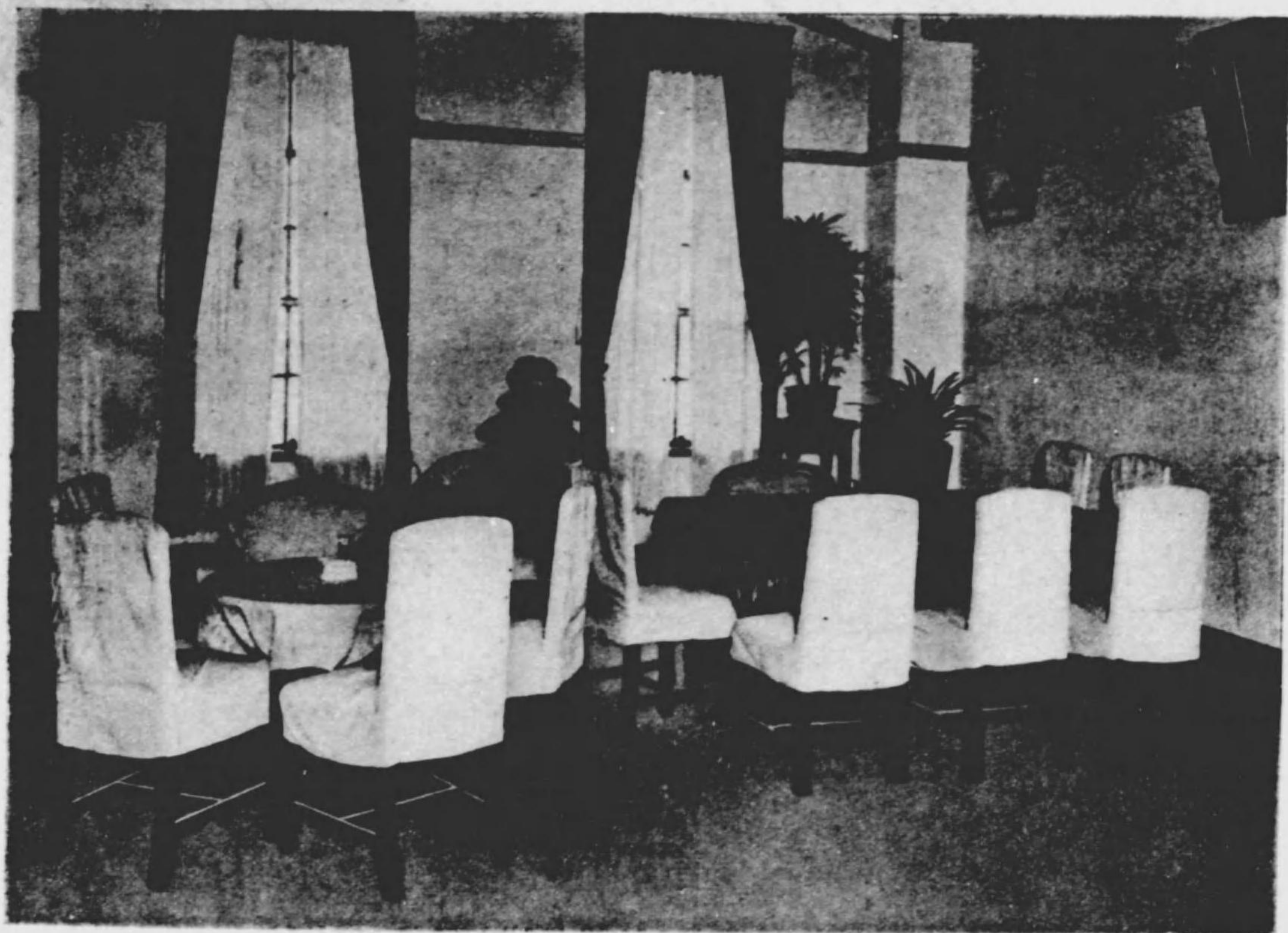


東亞學校

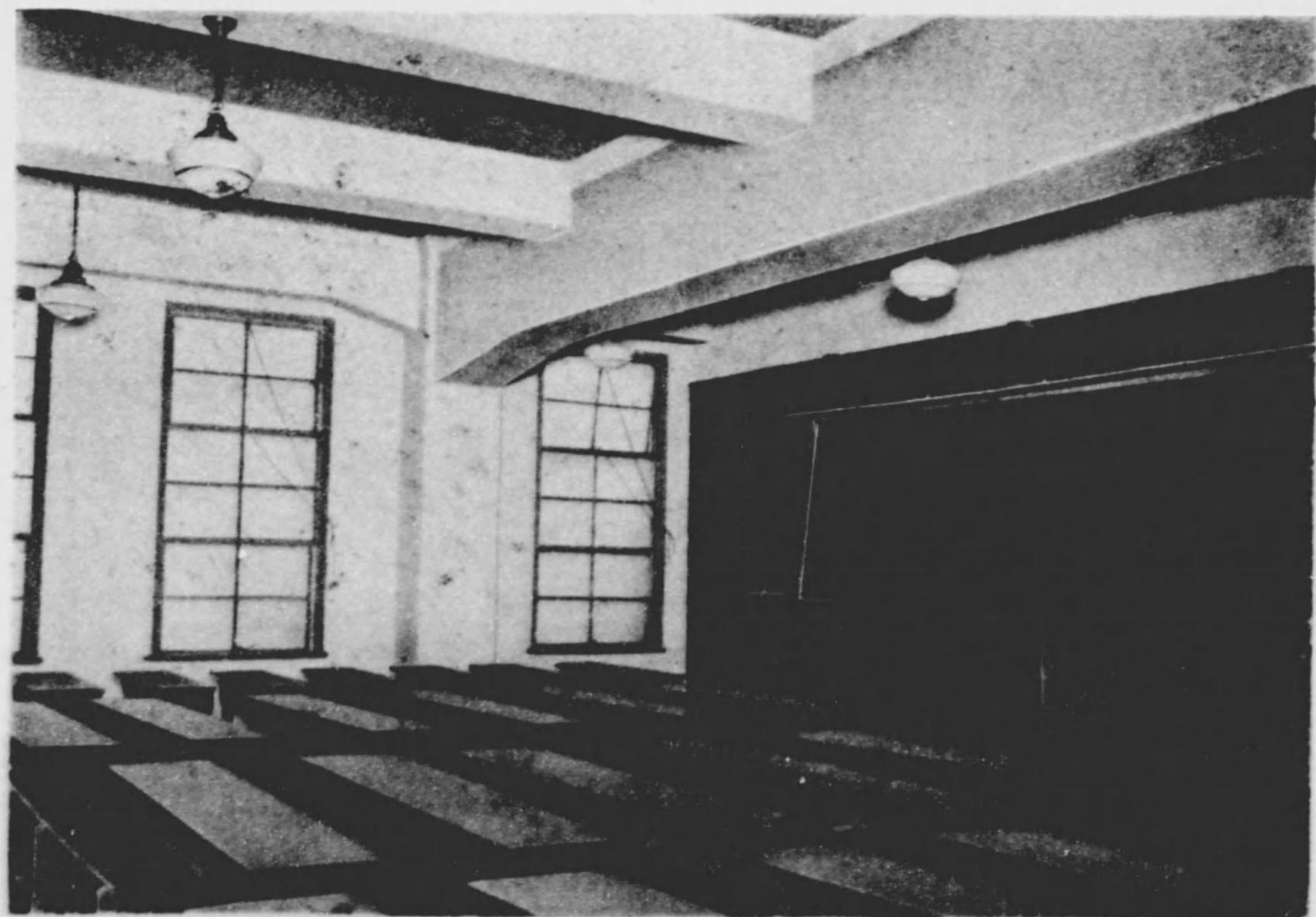
東京市神田區保町二丁目十二番地

電話九三三(33)番
番一四三〇

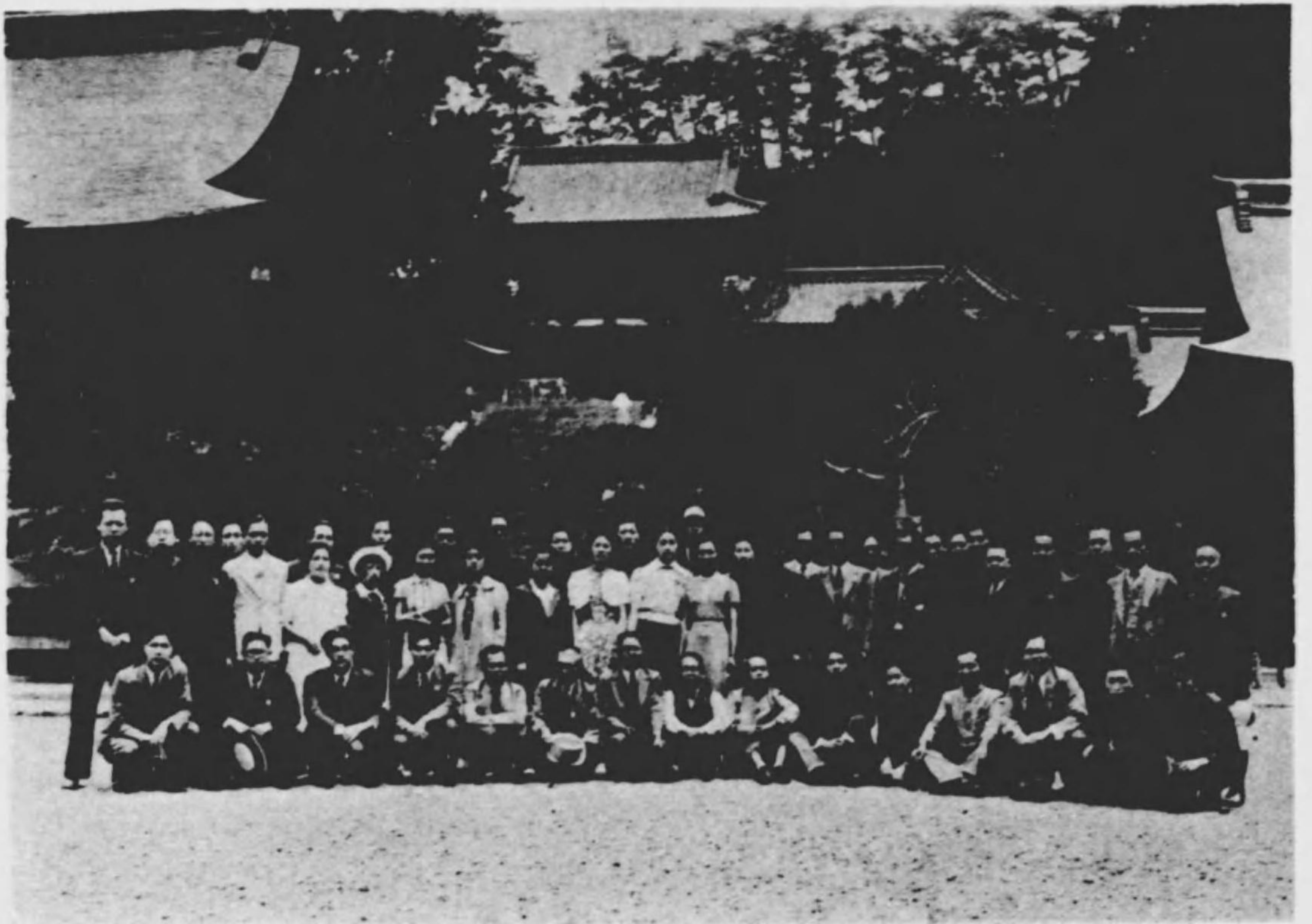
特248
54



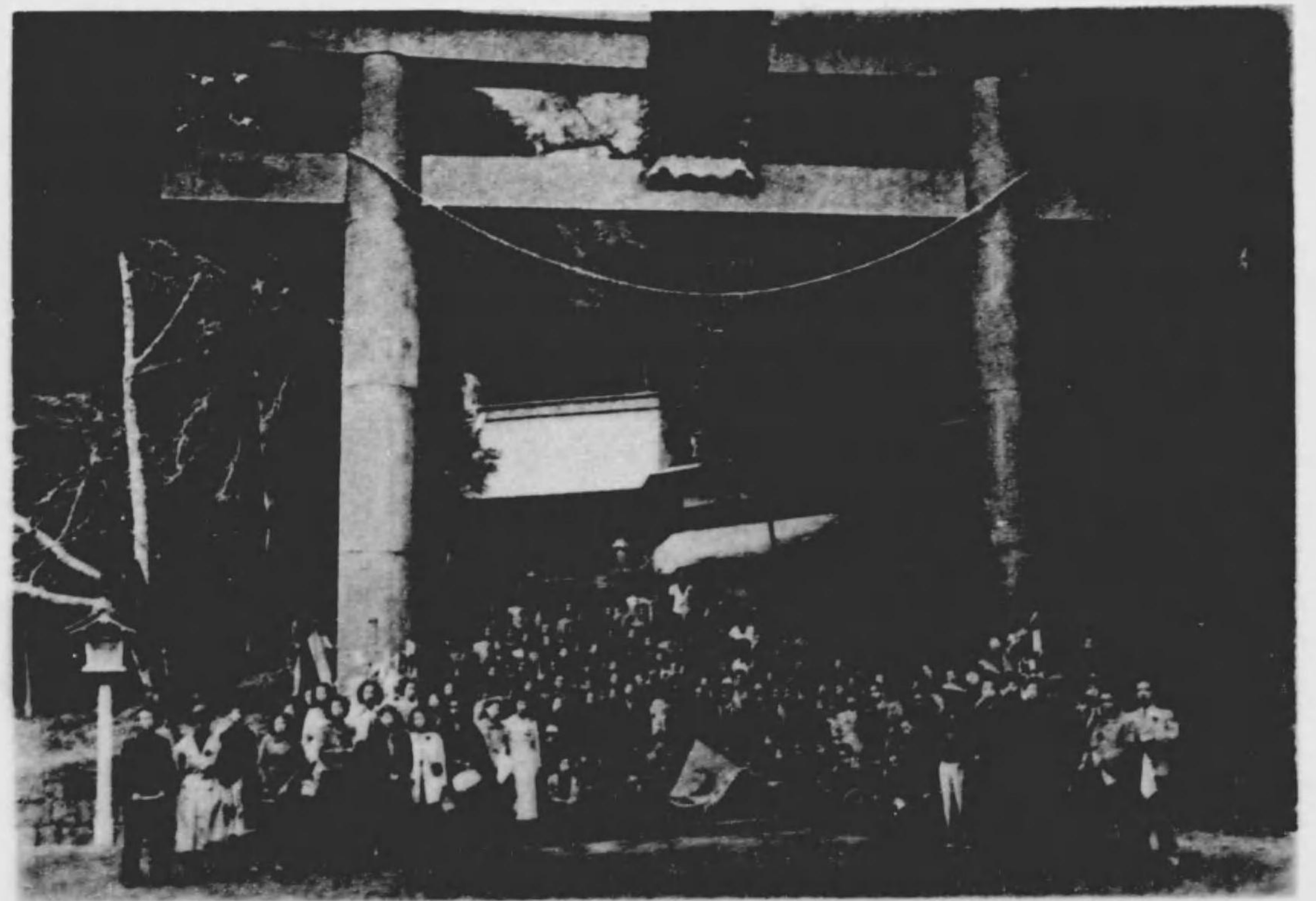
室 接 應 校 本



部 一 / 室 教 校 本



江の島・鎌倉遠足會



日光遠足會

東亞學校案内

發行所寄贈本

日本語を組織的に學習し、これに精通せんとするには先づ完備した學校を擇ぶことが先決問題である。

本校は財團法人日華學會によつて經營せられ、創立以來既に三十年の久しきに涉つて東亞友邦の留學生に對し主として日本語を教授し、又諸種の學術を修得せんとするものの爲に、その豫備教育を施して來たのである。本校卒業生並に修了者は爾來二萬餘人の多きに及んでゐる。本校に於ける獨得の教授法、教科書等はすべてこの間に於ける經驗の集積であつて、なほ總てこれに檢討を加へ研究を重ねて、常に改善進歩に向つて邁進してゐる。これ本校が留學生に對し日本語並に高等學校規程に準據せる諸學科を教授し、且以て日本文化の由來をも會得せしむべき最良の施設を有する所以である。



東亞學校之簡則及小史

欲有系統的學習而精通日本語者、首須選擇完備之學校。本校爲財團法人日華學會所經營、創立以來已垂三十有餘年、向對於東亞友邦留學生以教授日本語爲主、又爲欲修得諸種學術者、施以預備教育爲目的。爾來本校畢業生人數不下二萬餘人。本校之教授法及課本均具有獨步之處、是乃集積多年之經驗及不斷之研究結果所成、而現在向改善進歩之目標邁進中。此本校之所以具有爲對於留學生授以日本語及準據高等學校規程之各學科而使可曉得日本文化之由來之最良施設者也。



沿革概要

中華民國留學生の起りは、今より約五十年前である。その最盛時は、明治三十五年より四十年前後で、嘉納治五郎氏創立の宏文學院の時代である。其の後明治の末年に至り留學生數一時減退の傾向を示せるも大正二年頃より再び増加し來る氣運に向ひたる爲、元宏文學院教授松本龜次郎氏が此等の學生に日本語の教授を始めたのが即ち本校創始の濫觴である。

中華民國留學生之起始、係距今五十餘年前。其最盛時期爲明治三十五年至四十年前後之頃、即嘉納治五郎氏所創立之宏文學院之時代也。厥後至明治末年留學生人數雖呈一時減少之傾向、迨至大正二年之頃復再趨向增加之氣運、因而舊宏文學院教授松本龜次郎氏開始教授此等學生之日本語、此即本校創立之濫觴也。

松本龜次郎、吉澤嘉壽之丞、杉榮三郎氏設立者となり本校前身の日華同人共立東亞高等豫備學校を設立し、松本氏校長に就任。

松本龜次郎、吉澤嘉壽之丞、杉榮三郎氏設立本校之前身日華同人共立東亞高等豫備學校、松本氏就任校長。

財團法人東亞高等豫備學校を設立。(學生數壹千名)

設立財團法人東亞高等豫備學校(學生人數爲壹千名)

財團法人日華學會の經營に移り校名を單に東亞高等豫備學校と改稱、財團法人日華學會會長侯爵細川護立氏校長に、前臺北高等學校校長松村傳氏學監に、松本龜次郎次教頭に就任。(學生數二百三十餘名)

移歸財團法人日華學會經營、單改稱東亞高等豫備學校、財團法人日華學會會長侯爵細川護立氏就任校長、前臺北高等學校校長松村傳氏任學監、松本龜次郎氏任教頭(學生人數爲二百三十餘名)

第一回評議員會開催、學則制定。

招集第一回評議員會、制定學則。

松村學監水戸高等學校校長に轉任、元山形高等學校校長三輪田輪三氏學監に就任。

松村學監轉任水戸高等學校校長、舊山形高等學校校長三輪田輪三氏就任學監。

現校舍新築竣工、十一月落成祝賀會開催。(學生數七百七十名)

現在使用之校舍、建築竣工、十一月開落成祝賀會(學生人數爲七百七十名)

松本教頭名譽教頭に、山根教員教頭に就任。

松本教頭調任名譽教頭、山根教員充任教頭。

三輪田學監辭任、帝室博物館總長法學博士杉榮三郎氏學監に就任。(同年十二月末學生數壹千五十九名)

三輪田學監辭任、帝國博物館總長法學博士杉榮三郎氏就任學監。(同年十二月末學生人數爲壹千零五十九名)

東亞學校と改稱、學則一部改訂。(同年十二月末學生數壹千九百八十名、創立以來最高記録)

本校濫觴

大正三年十月

同 九年三月

同 十四年四月

大正十五年三月

同 十五年九月

昭和四年四月

同 六年九月

同 九年四月

同 十年五月

昭和十二年一月

改稱東亞學校、學則一部分改訂。(同年十二月末學生人數約壹千九百八十名、爲創立以來最高記錄)
杉學監辭任、前文部省專門學務局長赤間信義氏學監就任。

同 十二年四月

杉學監辭任、前文部省專門學務局長赤間信義氏就任學監。
學則改訂、本科を廢し高等學校令に準據せる高等科(三年)を設置、又專修科(一年)を正科(一年)と改稱。

同 十五年一月

學則改訂、廢止本科、準據高等學校令設置高等科(三年)、又將專修科(一年)改稱爲正科(一年)。
赤間學監文部次官に轉任、前學監杉榮三郎氏再び學監に就任。(同年七月學生數二百八十九名)

同 十五年八月

赤間學監轉任文部次官、前學監杉榮三郎氏再就任學監。(同年七月學生人數爲二百八十九名)
依據文部省令第三十五號本校高等科卒業者關於入大學得有與高等學校高等科卒業者同等之資格。

學 則 抄

第一章 總 則

第二條 本校ハ東亞友邦ノ留學生ニ對シ主トシテ日本語ヲ教授シ、又諸種ノ學術ヲ修得セントスル者ノ爲ニ豫備教育ヲ施スヲ以テ目的トス

第二條 本校ノ修業年限ハ四年トシ、正科一年高等科三年トス

第一章 總 則

第一條 本校主對於東亞友邦留學生教授日本語暨爲欲修得諸種學術者施以其豫備教育爲目的

第二條 本校修業年限四年其中正科一年高等科三年

第二章 學科目、學科課程及ビ授業時數

第三條 正科ノ學科目ハ修身、日本語トス

但シ隨時英語、數學、物理、化學、博物、地理、歴史等ノ學科目ヲ附設スルコトアルベシ

高等科ノ學科目ハ修身、日本語、英語、歴史、地理、哲學概説、心理論理、法制經濟、數學、自然科學トス

第四條 修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ實踐躬行ヲ勸奨スルモノトス

正科ノ日本語ハ發音、讀法、解釋、書取、話方、文法、作文ヲ授ケ普通ノ口語及ビ文語ニ習熟セシムルモノトス

正科附設ノ英語、數學等ハ中學校ノ課程ニ準據シテ之ヲ授ケルモノトス

第五條 正科及ビ高等科ノ各學科目毎週教授時數ハ左ノ如シ

學科目	正科		
	第一期	第二期	第三期
修身	一	一	一
日本語	四	一	一
會話	二	一	一
講義	二	一	一
讀法	五	三	四
書寫	一	二	二
作文	一	二	二
計	二四	一八	一八

第二章 學科課程及授業時間

第三條 正科學科爲修身、日本語

但得隨時附設、英語、數學、物理、化學、博物、地理、歴史等科

高等科學科爲修身、日本語、英語、歴史、地理、哲學概説、心理論理、法制經濟、數學、自然化學

第四條 修身授以道德之要領獎勵躬行實踐

正科之日本語授以發音、讀法、解釋、書寫、會話、作文、文法以使用習熟普通口語及文語

正科附設之英語、數學等依照中學校課程教授之
高等科之各科依照高等學校規程教授之

第五條 正科及高等科各科毎週教授時間如左

學科目	正科		
	第一期	第二期	第三期
修身	一	一	一
日本語	四	一	一
會話	二	一	一
講義	二	一	一
讀法	五	三	四
書寫	一	二	二
作文	一	二	二
計	二四	一八	一八

修身ハ日本語教授ノ際適宜之ヲ授クルコトヲ得

高等科

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
日本語	一五	一三	一三
英語	七	七	七
歷史	二	四	四
地理	一	一	四
哲學概說			三
心理學	二	二	
法制經濟		二	二
數學	三		
自然科學		二	二
計	三一	三一	三一

修身ハ日本語教授ノ際適宜之ヲ授クルコトヲ得

第三章 學期及ビ休業日

第六條 正科ノ學期ハ左ノ三種トス

- 第一種 四月ヨリ七月ニ至ル
- 第二期 九月ヨリ十二月ニ至ル

修身得於教授日本語時教授之

高等科

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
日本語	一五	一三	一三
英語	七	七	七
歷史	二	四	四
地理	一	一	四
哲學概說			三
心理學	二	二	
法制經濟		二	二
數學	三		
自然科學		二	二
計	三一	三一	三一

修身得於教授日本語時教授之

第三章 學期及休業日

第六條 正科學期爲如左三種

- 第一種 四月ヨリ七月
- 第二期 自九月至十二月

第三期 一月ヨリ三月ニ至ル

第二種 九月開始

- 第一期 九月ヨリ十二月ニ至ル
- 第二期 一月ヨリ三月ニ至ル
- 第三期 四月ヨリ七月ニ至ル

第三種 一月開始

- 第一期 一月ヨリ三月ニ至ル
- 第二期 四月ヨリ七月ニ至ル
- 第三期 七月ヨリ十二月ニ至ル

第七條 高等科ノ學年ハ四月ニ始マリ左ノ三學期ニ分ツ

- 第一學期 四月ヨリ七月ニ至ル
- 第二學期 九月ヨリ十二月ニ至ル
- 第三學期 一月ヨリ三月ニ至ル

第五章 入學、在學及ビ退學

第十一條 正科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本國ノ中學若ハ之ト同等程度以上ノ學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者トス

第十二條 高等科ニ入學ヲ許スベキ者ハ正科ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者トス

第十三條 入學志願者ハ本校所定ノ用紙ニ學歴志望等ヲ明細ニ記入シテ

第三期 自一月至三月

第二種 九月開始

- 第一期 自九月至十二月
- 第二期 自一月至三月
- 第三期 自四月至七月

第三種 一月開始

- 第一期 自一月至三月
- 第二期 自四月至七月
- 第三期 自九月至十二月

第七條 高等科四月開始分爲如左三學期

- 第一學期 自四月至七月
- 第二學期 自九月至十二月
- 第三學期 自一月至三月

第五章 入學在學及退學

第十一條 正科入學資格如左 本國中學校或同等以上學校畢業生或具有與之同等以上學力者

第十二條 高等科入學資格如左 正科畢業生或具有與之同等以上學力者

第十三條 志願入學者須於本校所定報名單上填寫其學歴志望等提

提出スベシ

第七章 賞 罰

第二十二條 品行方正、精勵格勤、學業優秀ニシテ他ノ學生ノ模範トスルニ足ルト認ムル者ハ之ヲ褒賞シ又ハ特待生トシテ授業料ヲ免除スルコトアルベシ

第八章 入學料及ビ授業料

第二十五條 入學料ハ金貳圓トシ入學ノ際之ヲ徴收ス

第二十六條 正科ノ授業料ハ左ノ如ク區別シ各學期ノ始ニ於テ之ヲ分納スルモノトス

第一種 (四月開始)

第一期 (自四月 至七月) 十五圓

第二期 (自九月 至十二月) 十二圓

第三期 (自一月 至三月) 八圓

第二種 (九月開始)

第一期 (自九月 至十二月) 十五圓

第二期 (自一月 至三月) 八圓

第三期 (自四月 至七月) 十二圓

第三種 (一月開始)

第一期 (自一月 至三月) 十二圓

出之

第七章 賞 罰

第二十二條 品行端正、精勵格勤、學業優秀而認爲足作他生之模範者得褒賞之或作特待生而免除其學費

第八章 報名費及學費

第二十五條 報名費爲二圓于入學時繳納之

第二十六條 正科學費分爲如左

第一種 (四月開始)

第一期 (自四月 至七月) 十五圓

第二期 (自九月 至十二月) 十二圓

第三期 (自一月 至三月) 八圓

第二種 (九月開始)

第一期 (自九月 至十二月) 十五圓

第二期 (自一月 至三月) 八圓

第三期 (自四月 至七月) 十二圓

第三種 (一月開始)

第一期 (自一月 至三月) 十二圓

第二期 (自四月 至七月) 十二圓
第三期 (自九月 至十二月) 十二圓
高等科ノ授業料ハ每學年五十五圓トシ每學期ノ始ニ於テ之ヲ分納スルモノトス

第一學期 二十圓
第二學期 二十圓
第三學期 十五圓

備考

高等科學生ニシテ學業優秀品行方正ナルモノニハ銓衡ノ上奨學金トシテ學費ヲ補助支給スルコトアリ

高等科學生如有學業優秀、品行端正者、經審議之後、由本校給予、補助奨學金。

本校と上級學校

一、本邦各大學專門學校に入學せんとするものは十分日本語に熟達してゐなければならない。本校正科は主として日本語を教授してゐるのであるが、左に本校卒業生の過去八年間に於ける上級學校入學者數を掲げて參考とする。

一、欲投考日本各大學及專門學校者、不得不精通日本語。本校正科以教授日本語爲主、爰將本校過去八年間畢業生之上級學校入學學生數掲示於左、以供參考。

第二期 (自四月 至七月) 十二圓
第三期 (自九月 至十二月) 十二圓
高等科學費爲每學年五十五圓每學期開學時分納之

第一學期 二十圓
第二學期 二十圓
第三學期 十五圓

自昭和七年度 至昭和十四年度 本校學生上級學校入學者數

學校名	入學者數	學校名	入學者數	學校名	入學者數	學校名	入學者數
東京帝國大學	九五	三重高等農林學校	四	東京鐵道局教習所	一五四	名古屋飛行學校	九
京都帝國大學	四八	千葉高等商業學校	一	陸軍士官學校	五三	東京物理學校	一九
東北帝國大學	二九	長崎高等商業學校	五七	早稻田大學	二四七	武蔵高等工業學校	五
九州帝國大學	三六	山口高等商業學校	五	慶應義塾大學	一七	東京高等工業學校	二七
北海道帝國大學	二六	福島高等商業學校	二	明治大學	五三五	日本女子大學	四〇
大阪帝國大學	六	第一高等學校	七	明治大學女子部	四	東京女子大學	一六
東京商科大學	四六	第三高等學校	一	法政大學	四四九	東京女子醫學院	四三
神戶商科大學	一	第八高等學校	一	中央大學	一五〇	帝國女子醫學院	二五
大阪商科大學	二	水戸高等學校	一	日本中央大學	一七八	東京女子藥學院	二
千葉商科大學	一	仙臺高等工業學校	三	立教大學	一〇九	東洋女子醫學院	二〇
東京工業大學	八九	名古屋高等工業學校	三	九州農工大學	二	帝國女子專門學校	九
東京文理科大學	一〇	横濱高等工業學校	二	東京農工大學	三四	日本女子齒科醫學院	三
東京高等師範學校	五八	東京高等工藝學校	四	九州醫學專門學校	二	日本女子體育專門學校	六
廣島高等師範學校	二九	明治專門學校	一八	岩手醫學專門學校	三	共立女子專門學校	一一
東京女子高等師範學校	八	東京外國語學校	七	東京齒科醫學專門學校	一	女子美術學校	九
奈良女子高等師範學校	六	東京音樂學校	八	東京醫學專門學校	一	其他	三八
東京高等師範學校	五	東京美術學校	一〇	麻布醫學專門學校	六	合計	二、九七九
京都高等師範學校	一	東京高等商船學校	二	昭和醫學專門學校	二		
上田醫科專門學校	三	水産講習所	三	明治藥學專門學校	一		
東京高等農林學校	六	警察講習所	二	日本美術學校	六		

なほ本校正科入學期は四月・九月・一月の三回に分れてゐるが本邦諸學校の入學期は四月である關係上、上級學校に入學せんとするものは非三月中に來朝、四月本校正科第一期に入學し、第二期第三期を逐次履習して翌年三月正科を卒業し、而る後上級學校に入學することにすれば修學上最も合理的である。

一、本校高等科は高等學校規程に準據して諸學科を教授するものであつて學業年限は三ヶ年である。而して昭和十五年八月七日文部省令第三十五號により、本校高等科卒業生は大學入學の關係に付ては高等學校高等科卒業生と同等の資格を得ることになつた。

由來本校正科入學時期分爲四月、九月、一月三期、惟日本語學校入學時期爲在四月、故欲進本校正科履修日本語者、於三月中東渡來日本、進入四月之新學期、逐次履修第二期、第三期翌年三月而畢業本校正科、而後上級學校、此爲修學上最爲理想者也。

一、本校高等科乃準據高等學校規程、教授諸學科者、修業年限爲三年。而依據昭和十五年八月七日文部省令第三十五號本校高等科卒業生關於入大學得有與高等學校高等科卒業生同等之資格。

特別講習班と夜間日本語講習班

一、本校正科第二期並に第三期在學生中將來上級學校に入學せんとするもの爲に隨時英語・數學・物理・化學・博物・地理・歴史等の諸學科につき特別講習班を開設することがある。

一、晝間他の學校に通校するもの、其他留學生にて更に日本語を研鑽せんとするもの爲に夜間日本語講習班を置き、從來春秋の二期に於て常設的に開設して來た。この講習班は入學志望者の既習日本語學力の程度によつて左の二班に分つ。

- 普通班 本校正科第一期修了程度
 - 高級班 本校正科第二期修了程度
- 授業時間は各班とも毎週十二時間である。

一、爲本校正科第二期、第三期在學、而將來欲入上級學校之學生、隨時開設英文、數學、物理、化學、博物、地理、歴史等諸學科之特別講習班。

一、本校爲晝間通學他學校之學生、或更欲研究深造日本語者、開設夜間日本語講習班、而春秋二期常川設立。此班按已修得日本語之程度分編爲如左之二班。

- 普通班 本校正科第一期修了程度
- 高級班 本校正科第二期修了程度

127
158

講 師
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
務 務 務 務 務 務 務 務 務 務
主 任 計 會 庶 務 庶 務 庶 務

(英 語)
(博 物 學 理 化)
(英 語)
(數 學)
(心 理 學 理 論)
(歷 史)
(英 語)
(數 學 理 化)
(國 語)

大 塚 高 信
稻 荷 山 高 資
篠 田 錦 策
山 田 欽 一
富 田 竹 三 郎
中 川 一 郎
湯 淺 初 男
吉 澤 嘉 壽 之 承 男
熊 澤 義 一 郎
數 納 義 一 郎
字 野 寬 吉
水 上 陽 雄
青 木
以上三十八名

